

マツクイムシ伐倒駆除 ー選木の手引きー

マツクイムシ被害とは？

正式にはマツの材線虫病と言い、**マツノマダラカミキリ**によって運ばれる**マツノザイセンチュウ**によって引き起こされるマツ類(アカマツ, クロマツ, ゴヨウマツ等)の病気です。北海道と青森県を除く、全国各地で猛威をふるっています。



被害林



マツノマダラカミキリ(メス成虫)



マツノザイセンチュウ

伐倒駆除とは？

材線虫病によって枯死したマツを伐倒して焼却や薬剤散布等の処理を行うことです。枯死したマツに寄生しているマツノマダラカミキリを駆除して被害の拡散を防ぎます(マツを枯らす「主犯」はあくまでもマツノザイセンチュウですが、彼らには木から木へと移動する能力はありません)。

限られた予算で効果を上げるためには、「伐倒駆除すべき木」を正しく選別する必要があります。「伐倒駆除すべき木」とは、マツノマダラカミキリが寄生しており、放置すればマツノマダラカミキリの発生源、すなわち被害拡大の原因となる木です。ここでは、その見分け方をご紹介します。

チェック 1: そのマツは枯れていますか？

- 枯れていない → 伐倒駆除の必要はありません。
- 枯れている → チェック 2に進んでください。

★ 枯れていない木からマツノマダラカミキリは発生しません。

チェック 2: 脱出孔はありませんか？

- あります → 古い被害木です。伐倒駆除は必要ありません。
- ありません → チェック 3に進んでください。

★ マツノマダラカミキリは直径8 mmほどの真円の穴をあけて、枯死木から脱出してきます。



マツノマダラカミキリの脱出孔

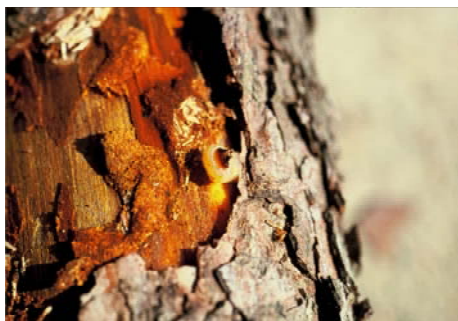
(裏面にすすむ)

チェック 3: 幼虫の食痕(食いあと)はありますか？

□ ありません → 伐倒駆除の必要はありません。

□ あります → **伐倒駆除してください。**

★ マツノマダラカミキリはマツの枯死木の樹皮下で材を食べながら成長します。幼虫が食い進んだ後には特徴的な食痕(荒い繊維状の排泄物=細長い木屑)が残されます。



樹皮下の幼虫



幼虫の食痕



すなわち、**脱出孔がなく、かつ幼虫の食痕があるマツの枯死木を優先的に駆除すること**が重要です。

その他の留意事項

- マツノマダラカミキリが寄生している木を伐り倒すだけでは防除効果はありません。伐倒木を粉碎するか、登録薬剤を使用して材内のマツノマダラカミキリをきちんと駆除しましょう。
- たとえマツノマダラカミキリが寄生していなくても、倒木の危険がある場合や景観上の問題がある場合は伐倒処理が必要です。ただしこの場合は松くい虫対策事業(森林病害虫等防除事業)の対象外となります。
- このほかマツノマダラカミキリの産卵痕や潜入孔(幼虫は樹皮下を食い進んだ後、材内に潜って越冬するが、その際にあけられる穴)も特徴的です。ぜひ覚えて判断の参考にしてください。



産卵孔



幼虫の潜入孔(脱出孔と異なり楕円状)

このリーフレットに関する問い合わせ先

林業研究部のマツクイムシ関連ホームページ

〒515-2602 三重県津市白山町二本木3769-1
三重県科学技術振興センター林業研究部
TEL: 059-262-5352; FAX: 059-262-0960
E-mail: ringi@pref.mie.jp

<http://www.mpstpc.pref.mie.jp/RIN/matsukui/>

©三重県科学技術振興センター林業研究部